

最終評価シート

最終評価（表紙）

長野市 歴史的風致維持向上計画(平成25年4月11日認定) 最終評価(平成25年度～令和5年度)

■ 統括シート(様式1)	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史的建造物の保全と活用	3
II 伝統技術の継承	4
III 歴史的まちなみと周辺環境の保全	5
IV 伝統的な祭礼等の継承	6
V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光や情報発信	7
VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究	8
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 観光地利用者の推移	9
ii 市民の歴史・文化に対する関心の高まり	10
iii 住民主体の積極的な歴史まちづくり活動	11
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 善光寺周辺地域道路美装化事業	12
B 戸隠茅場整備事業	13
C 史跡松代城跡保存整備事業	14
D 鬼無里地域の伝統的な祭礼等PR事業	15
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 善光寺御開帳にみる歴史的風致	16
2 弥栄神社の御祭礼にみる歴史的風致	17
3 善光寺周辺寺社の祭礼にみる歴史的風致	18
4 戸隠神社の式年大祭にみる歴史的風致	19
5 戸隠信仰と戸隠古道にみる歴史的風致	20
6 水路と庭園にみる松代城下町の歴史的風致	21
7 祭礼にみる松代城下町の歴史的風致	22
8 大室古墳群にみる歴史的風致	23
9 街道と川田宿にみる歴史的風致	24
10 白髭神社と祭礼にみる歴史的風致	25
11 鬼無里神社の祭礼と町屋にみる歴史的風致	26
12 諏訪神社の御柱祭にみる歴史的風致	27
■ 庁内体制シート(様式6)	28
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	29
■ 対応シート(様式8)	32

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	善光寺御開帳にみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ	
2	弥栄神社の御祭礼にみる歴史的風致	Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ, Ⅵ	
3	善光寺周辺寺社の祭礼にみる歴史的風致	Ⅳ, Ⅴ, Ⅵ	
4	戸隠神社の式年大祭にみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ, Ⅵ	
5	戸隠信仰と戸隠古道にみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅴ, Ⅵ	
6	水路と庭園にみる松代城下町の歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅵ	
7	祭礼にみる松代城下町の歴史的風致	Ⅰ, Ⅳ, Ⅴ	
8	大室古墳群にみる歴史的風致	Ⅴ, Ⅵ	
9	街道と川田宿にみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅳ, Ⅴ	
10	白髯神社の祭礼にみる歴史的風致	Ⅳ, Ⅴ	
11	鬼無里神社の祭礼と町屋にみる歴史的風致	Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ	
12	諏訪神社の御柱祭にみる歴史的風致	Ⅳ, Ⅴ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的建造物の保全と活用		
Ⅱ	伝統技術の継承		
Ⅲ	歴史的まちなみと周辺環境の保全		
Ⅳ	伝統的な祭礼等の継承		
Ⅴ	文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光や情報発信		
Ⅵ	歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光地利用者の推移		
ii	市民の歴史・文化に対する関心の高まり		
iii	住民主体の積極的な歴史まちづくり活動		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	善光寺周辺地域道路美装化事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	戸隠茅場整備事業	歴史的風致の普及・啓発	
C	史跡松代城跡保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
D	鬼無里地域の伝統的な祭礼等PR事業	伝統的な祭礼等の普及・啓発	

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
方針	I 歴史的建造物の保全と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

＜課題＞ 修理や修復に多額な費用を要することから、適切な維持管理が行われず歴史的建造物の老朽化や滅失が進み、歴史的風情あるまちなみが失われつつある。また、空き家となっているものも多く、その保存や活用が課題となっている。

＜方針＞ 歴史的建造物を歴史的風致形成建造物に指定することで、所有者が保護措置を講じられるよう修理等に支援し滅失を防止する。また、空き家対策の面からも、まちづくり活動を行う地元組織等と連携しながら、歴史的建造物の情報共有や利活用を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	善光寺本堂耐震補強事業 ほか	指定文化財、登録文化財の保存整備 19事業	あり	H25～R5
2	歴史的風致形成建造物修理助成事業	7件の指定、7件の修理助成（うち戸隠地区4件）	あり	H26～R5
3	景観重要建造物修理助成事業	戸隠地域2件、松代地域1件の修理助成	あり	H26～R5
4	戸隠地域建造物修理修景助成事業	8件の修理助成	あり	H29～R5
5	寺町商家（旧金箱家住宅）保存整備事業	市指定文化財の保存整備及び活用	あり	H23～26

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■計画期間内に、重点区域にある国、県、市の指定文化財、登録文化財の保存整備を19事業立ち上げ、国、県等関係機関の支援の下、修理を実施した。

■重要な歴史的建造物7件について、所有者と協議を重ね、「歴史的風致形成建造物」に指定し、修理等に対し助成を行った。

■戸隠地区では、歴史的風致形成建造物4件、景観重要建造物2件に修理等の助成を行うとともに、住民と連携して歴史まちづくりを進めたことで、戸隠神社中社・宝光社門前の町並みが、平成29年2月に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。選定後に保存地区内の建造物等の修理や修景8件に助成するなど歴史的建造物保存の支援を更に進めるとともに、景観整備の実施や地域の歴史や文化を継承する住民による活動も精力的に行われている。

■松代地区では、市が保存整備した市指定文化財の寺町商家（旧金箱家住宅）を地元まちづくり団体が、食事提供や講座開催などに活用している。

④ 自己評価

重要な歴史的建造物である指定文化財等の保存整備や戸隠中社・宝光社地区の重要伝統的建造物群保存地区選定などの成果があった。まだ重点区域には適切な管理がされていない歴史的建造物があり、対策が必要である。

⑤ 今後の対応

国、県等の関係機関や地域のまちづくり団体等と連携して、歴史的建造物の保護措置を継続していく。また、保存整備にとどまることなく、寺町商家、文武学校等の活用をモデルとして、見たり、触れたり、使いながら、市民、来訪者にその価値を認識してもらえるよう歴史的建造物の利活用を図る。



長野市戸隠伝統的建造物群
保存地区のまちなみ



寺町商家（旧金箱家住宅）の
活用

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
方針	Ⅱ 伝統技術の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

＜課題＞ 歴史的建造物の修復・修理には、伝統的な建築技術や構法を用いるが、それらを生かす機会がなく熟練の技術や経験が急速に失われつつある。また、本市面積の4分の3を占める中山間地域に数多く残る茅葺屋根の葺き替えに必要な茅（ススキ）材を市内で賄うことが難しくなっている。

＜方針＞ 歴史的建造物の適切な修理等に不可欠な伝統技術を継承するために、伝統的建造物群保存地区制度等を活用した修理修景事業の助成を通じて、住民や職人等と連携して伝統技術継承の仕組みをつくる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	戸隠地域建造物修理修景助成事業	8件の修理助成（うち茅葺き替え4件）	あり	H29～R5
2	戸隠茅場整備事業	毎年11月に茅材確保のための茅刈り	あり	H26～R5
3	歴史的風致形成建造物修理助成事業	7件の指定、7件の修理助成（うち戸隠地区4件）	あり	H26～R5
4	景観重要建造物修理助成事業	戸隠地域2件、松代地域1件の修理助成	あり	H26～R5
5	伝統環境保存事業	修理・修景に対し97件助成（うち計画期間では13件助成）	あり	S59～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■戸隠中社・宝光社地区が平成29年2月に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、建造物の修理・修景等を行う保存事業により、大工・左官・曳屋・茅葺・石工等の伝統技術を要する工事が増え、技術の継承に寄与した。また、茅葺屋根の適切な保存には、定期的に手を入れる必要があり、茅葺に係る仕事の間が増えたことで、茅葺職人が市外から移住し、保存事業に関わるようになった。

■戸隠地区内の茅葺屋根に使用する茅材を地区内で賄えるよう地区内の茅場（戸隠スキー場中社ゲレンデ）を整備するとともに、毎年11月に地域住民を中心に学生や地区外の市民を募って茅刈りを実施し、茅刈り技術の習得、継承が図られている。

■長野市伝統環境保存条例（S58制定）に基づき、松代地区では、昭和59年度から建造物や庭園等の修理・修景に対して97件の助成を実施しており、継続して伝統技術を必要とする仕事の間があることで技術が継承されている。

茅刈りの様子

伝統技術を活用した修理事業

④ 自己評価

歴史的建造物の修理等への助成制度により、伝統技術を要する工事が継続して実施され、伝統技術の継承に寄与している。また、戸隠地区では、茅葺屋根の価値が再認識され、茅葺職人の移住、地域ぐるみで茅場の整備等が進んだ。

⑤ 今後の対応

戸隠地区において、茅葺屋根の修理に必要な茅材を地元で賄えるよう、引き続き茅場整備を支援するとともに、地域住民や若い世代への茅に係る伝統技術の継承と普及を図る。また、伝統的建造物群保存地区及び伝統環境保存区域の制度を活用し歴史的建造物を維持することで、伝統技術の継承を側面から支援する。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
方針	Ⅲ 歴史的まちなみと周辺環境の保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

＜課題＞ まちなみの連続性、人の移動や回遊性を踏まえた歴史的市街地の保全が課題となっている。また、松代地区や若穂川田地区では、廃線となった旧長野電鉄屋代線の線路敷及び駅舎の跡地の利活用が課題となっている。

＜方針＞ 歴史的まちなみや伝統的な景観に関して調査研究を行い、住民の理解と協力を得ながら、電柱電線類の地中化や移設、道路の美装化等を推進するとともに、自動車交通を抑制し歴史的風致を阻害しないアクセス駐車場の整備など各種制度を活用して周辺環境の整備を進め歴史的風致の維持及び向上を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	善光寺周辺地域道路美装化事業	周辺の景観に調和した舗装整備 施工延長 L=1,275m(H25～R3計画期間では1,084m)	あり	H15～R3
2	善光寺周辺地域電線類地中化事業	電線類地中化による歴史的景観の向上 施工延長 L=1,178m(H25～R2計画期間では939m)	あり	H17～R2
3	戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査事業	伝統的建造物群保存対策調査の実施	あり	H26～H27
4	松代地区道路美装化事業	城下町としての歴史的景観向上のため歩車道美装化 施工延長 L=1,563m(H25～R2計画期間では473m)	あり	H16～R2
5	旧松代駅舎保存活用事業	旧長野電鉄屋代線松代駅舎の利活用について検討	あり	H25～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■善光寺門前の宿坊群の路線において、電線類の地中化、道路美装化（石畳舗装）を実施し、周囲の伝統的な雰囲気と調和した良好な景観形成を図った。

本事業は、令和3年度に進捗率100%となり、令和4年に開催された善光寺御開帳に間に合ったことで、全国から訪れた約636万人の参拝者に本市が持つ歴史・文化の魅力を感じていただくことができた。

■戸隠中社・宝光社地区の一部は、伝統的建造物群保存対策調査により、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。また、住民との協働により、建造物の修復・修景等を行う保存事業や防災計画策定調査事業を実施するなど、歴史的風致の維持及び向上を図った。

■松代地区においては、城下町としての歴史的景観の向上を目指し、地元まちづくり組織や関係機関と協力し、周辺の歴史的建造物と調和する道路美装化を行った。また、地区の歴史的資源である庭園や泉水路の調査、旧長野電鉄屋代線松代駅舎の利活用の検討、駐車場の整備等、歴史的資源を活用した観光地づくりに関して、総合的に事業を推進した。

④ 自己評価

各種の事業実施によって、歴史的建造物と道路や水路などの周辺環境とが一体となり歴史的まちなみを感じられる良好な景観形成を推進した。

⑤ 今後の対応

引き続き無電柱化や道路美装化により良好な景観形成を推進するとともに、様々な制度を活用し、歴史的なまちなみの維持向上を図る。また、歴史的風致を阻害しないアクセス駐車場の整備について、地域住民及び関係課と検討していく。



善光寺周辺
道路美装化
電柱類地中化



整備後(H28)
釈迦堂通り(長野北98号線)

松代地区
小鮎川
改修



整備後(H25)

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
方針	IV 伝統的な祭礼等の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

＜課題＞ 近年の人口減少や少子高齢化を背景にした担い手不足のため、地域の人々が大切に守り伝えてきた無形の歴史的遺産である祭礼や伝統行事等の継承が危ぶまれている。

＜方針＞ 伝統的な祭礼等は、文化的価値に加え、地域の活性化やコミュニティの維持、観光振興にも繋がることから、地域住民をはじめ学校や育成会、専門家等と連携し、伝統的な祭礼等の特色や実施日等を広く発信するとともに、子どもたちが伝統的な祭礼に親しめる機会を持つことで担い手の育成につなげる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無形文化財支援事業	無形文化財3件の保存・公開に対する支援	あり	H25～R5
2	伝統芸能継承事業	伝統芸能の保存・継承団体に対する支援	あり	H28～R5
3	弥栄神社の御祭礼屋台巡行支援事業	巡行屋台の組み立て等への補助	あり	H25～R5
4	鬼無里地域の伝統的な祭礼等PR事業	インターネット等による祭礼の積極的情報発信	あり	H25～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■伝統的な祭礼や伝統芸能を継承する団体に対し、記録作成、伝承者養成、用具の修理・更新、体験教室の開催、保存・公開に要する経費を助成するとともに、地域を超えた団体間の交流や子ども達の参加を促すイベントの開催、活動団体の情報発信等を行い、伝統的な祭礼等の保存、継承につなげている。

■中心市街地（善光寺表参道）において、市内の獅子舞団体が結集して演舞する「ながの獅子舞フェスティバル」を平成29年度から開催している。令和5年度の「第7回ながの獅子舞フェスティバル」では、市内外の58団体が演舞を披露した。イベントは定着しつつあり、伝統芸能こどもフェスティバルとともに、市民が伝統文化に親しむ機会となっている。

■担い手不足や屋台の維持管理困難の理由から参加町会が減少していた弥栄神社の御祭礼屋台巡行について、各屋台の保管状況調査を行った上で、屋台や祭礼用具の組立解体、補修等を支援し参加を促すことで、屋台巡行の担い手の確保や育成につながった。

④ 自己評価

活動団体への助成のほか、ながの獅子舞フェスティバル、伝統芸能こどもフェスティバルを開催し伝統芸能の披露の機会を設け伝統的な祭礼や芸能の継承を促進した。活動を披露する機会、また、来訪者が目にする機会となることで、伝統的な祭礼等の意義を伝え、継承への一助となった。



ながの獅子舞フェスティバル



弥栄神社の御祭礼屋台巡行

⑤ 今後の対応

少子高齢化の中、伝統的な祭礼等を継承できるよう各団体への支援や発表の場の提供、イベントや活動団体等の情報発信など継続して支援するとともに、若い世代が伝統的な祭礼や芸能と接点を持つための施策について、引き続き取り組む。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
方針	V文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光や情報発信	今後の対応	施策拡充

① 課題と方針の概要

＜課題＞ 文化財や伝統的な祭礼等、歴史的建造物の魅力を効果的に発信するとともに、それらを活用して誘客に結びつける必要がある。また、訪れた方に歴史的建造物や歴史的まちなみへの分かりやすい案内や誘導及び、それらを結ぶ歩行空間を整備する必要がある。

＜方針＞ 文化財や歴史的風致は重要な観光資源であることから、所有者や関係団体と連携し、それらの価値や魅力を引き出し、積極的な情報発信により観光振興につなげる。また、歩行者用説明案内板の整備、文化財をめぐるルートづくりにより歩行環境の充実を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	松代町文化財保存活用推進事業	文化財施設でのボランティア活動の推進、真田宝物館ホームページの多言語化	あり	H25～R5
2	松代歴史文化の発信・誘客事業	地元まちづくり団体による誘客事業等への補助	あり	H22～R5
3	日本文化体験プログラム開発事業	日本文化体験プログラムの磨き上げ	あり	H30～R1
4	「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業	ホームページコンテンツの充実による情報発信	あり	H25～R5
5	鬼無里地域の伝統的な祭礼等PR事業	地元観光振興会によるホームページ・SNSによる情報発信	あり	H25～R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■松代地区では、地域住民自らが、まち歩きツアーやボランティアガイドなどで地域の歴史や文化の情報発信や誘客事業を企画・運営し、徐々に認知度も高まっている。また、地域住民が携わることで、住民自身の地域に対する愛着や自信が深まっている。

■真田宝物館ホームページを多言語化しインバウンド観光に対応するとともに、市文化財データベースホームページを充実させるなど、積極的な情報発信を行った。

■戸隠地区では、歴史的まちなみのガイドマップを手に地区内を歩き回る来訪者の姿が多くみられた。

■鬼無里地区では、観光振興会と連携し鬼無里ふるさと資料館で公開されている「彫工北村喜代松」制作の屋台や地区内で開催される御柱祭等の祭礼をツイッターを中心に情報発信するとともに、地元大学と連携して記録・観光動画等の制作が行われた。

ボランティアのまち歩き研修

鬼無里観光振興会Twitterも随時更新し情報発信

④ 自己評価

令和2年から流行した新型コロナウイルス感染症の影響で、インバウンドをはじめ、観光分野は大きな影響を受けたものの、文化財や伝統的な祭礼等の価値や魅力について、市と各地域・団体等が連携して継続的に情報発信をした。

⑤ 今後の対応

地域住民や関係団体、県、大学等と連携し、情報発信体制の強化、周遊ルートの構築、案内や説明のデジタル化など、文化財や歴史的建造物を活用して観光振興、地域活性化につなげていく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
方針	Ⅵ 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

＜課題＞ 市内では歴史的建造物や伝統的な祭礼が多く見られるが、十分な調査研究が実施されていない地域があり、全体を把握できていない。

＜方針＞ 歴史的風致の維持及び向上に向けて、歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等について、未調査地域も含め長期的視点から総合的な調査を継続的に行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的資源活用コーディネーター派遣事業	外部の専門家・有識者を派遣（年3回程度）	あり	H26～R5
2	文化財保存活用地域計画作成事業	計画作成のため、未指定文化財調査実施	あり	R4～R5
3	戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査事業	保存地区決定に向けた保存対策調査（H27報告書作成）	あり	H26～H27
4	戸隠伝統的建造物群保存地区防災計画策定調査事業	防災計画策定のため調査（R3防災計画作成）	あり	H29～R1
5	史跡松代城跡保存整備調査研究事業	旧城跡の公有地化・復元整備のための調査研究（H25報告書作成）	あり	H25
6	松代城下町歴史的建造物・庭園調査事業	悉皆調査・詳細調査、管理活用方法提案（H26報告書作成）	あり	H22～26

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■地域住民や関係団体の協力の下、戸隠中社・宝光社地区の歴史的建築物や周辺環境の調査を実施し、歴史的価値を明らかにした。また、調査成果を地区住民に報告し、意見交換をすることで、地域の歴史や文化に対する知識や、歴史まちづくりへの理解が深まり、重要伝統的建造物群保存地区の選定及び防災計画の策定に結び付いた。

■史跡松代城跡の調査研究を進め、その結果を受けて平成27年に史跡指定範囲が拡大した。これにより平成28年度から松代城跡第2期整備に取り組み、保存整備に向け、拡大した史跡指定部分の発掘調査等を進めている。

■本市の文化財及びその周辺環境を総合的に把握する調査を行い、それらを地域全体で保存・活用し、文化財を活かした魅力的な地域づくりに向けて、文化財保存活用地域計画の策定を進めている。

戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査範囲

④ 自己評価

歴史的建造物等の調査を進めたことで、歴史まちづくりへの住民の理解促進、機運醸成が進んだほか、重要伝統的建造物群保存地区選定や史跡指定範囲拡大など重要な成果に繋がっている。

⑤ 今後の対応

地域固有の歴史的風致の維持向上に向け、今後策定予定の文化財保存活用地域計画と連携を取りながら、文化財や歴史的建造物、伝統的な祭礼等の調査を継続的に実施し、本市の多様な歴史や文化を把握した上で、総合的に保存・活用していく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年																																	
効果	i 観光地利用者の推移																																			
① 効果の概要 計画認定以降の本市観光地利用者は1,000万人前後を維持																																				
② 関連する取り組み・計画																																				
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																																	
1	長野市総合計画（第四次、第五次）	あり	第四次：H19～H28 第五次：H29～R8																																	
2	長野市都市計画マスタープラン（平成29年改定）	あり	H29～R18																																	
3	長野市景観計画（平成30年改定）	あり	H30～																																	
4	長野市観光振興計画	なし	H29～																																	
5	長野市屋外広告物条例（平成18年改正）	あり	H18～																																	
6	長野市伝統的建造物群保存地区保存条例	あり	H28～																																	
③ 効果発現の経緯と成果																																				
人口減少、都市間競争が話題となる中、本市の観光地利用者数は、新型コロナウイルス感染症感染拡大や善光寺御開帳の特質した事項があった年を除き、およそ1,000万人前後で推移している。これは、第五次長野市総合計画の計画推進重点テーマの一つである「にぎわいのあるまちづくり」の交流人口の増加に向けて、様々な重点施策を実施してきた成果であり、本計画に基づく歴史まちづくりもその要因の一つと考えられる。 具体的には、重点区域での文化財や歴史的建造物の保存修理をはじめ、電柱電線類地中化、道路美装化等の環境整備により、核となる重要文化財建造物等と周辺まちなみが一体となって歴史的魅力が向上したことが挙げられる。 中でも、平成29年2月に長野市戸隠伝統的建造物群保存地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定され、戸隠地区の歴史まちづくりが地域住民を中心に進められたことで、戸隠地区の歴史的風致は広く認知され、観光地利用者数が大幅に増加したことは、長野市全体の利用者数維持に大きく貢献している。																																				
		<table border="1"> <caption>観光地利用者数（単位：千人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>総数</th> <th>戸隠高原</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H25</td><td>10,075</td><td>1,163</td></tr> <tr><td>H26</td><td>9,860</td><td>1,197</td></tr> <tr><td>H27</td><td>17,008</td><td>1,613</td></tr> <tr><td>H28</td><td>11,090</td><td>1,587</td></tr> <tr><td>H29</td><td>11,008</td><td>1,496</td></tr> <tr><td>H30</td><td>10,727</td><td>1,578</td></tr> <tr><td>R元</td><td>10,382</td><td>1,371</td></tr> <tr><td>R2</td><td>4,484</td><td>1,023</td></tr> <tr><td>R3</td><td>5,282</td><td>1,060</td></tr> <tr><td>R4</td><td>13,348</td><td>1,519</td></tr> </tbody> </table> 総数（主要11観光地）における戸隠高原利用者数（内数） 長野市戸隠伝統的建造物群保存地区		年度	総数	戸隠高原	H25	10,075	1,163	H26	9,860	1,197	H27	17,008	1,613	H28	11,090	1,587	H29	11,008	1,496	H30	10,727	1,578	R元	10,382	1,371	R2	4,484	1,023	R3	5,282	1,060	R4	13,348	1,519
年度	総数	戸隠高原																																		
H25	10,075	1,163																																		
H26	9,860	1,197																																		
H27	17,008	1,613																																		
H28	11,090	1,587																																		
H29	11,008	1,496																																		
H30	10,727	1,578																																		
R元	10,382	1,371																																		
R2	4,484	1,023																																		
R3	5,282	1,060																																		
R4	13,348	1,519																																		
④ 自己評価																																				
令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症の影響による特殊要因があるものの、観光地利用者数は一定数を維持した。善光寺や戸隠などを訪れる人数が多く、文化財や歴史的建造物と周辺環境の調和がとれた一体的整備を推進したことで、本市の歴史・文化の魅力が維持向上している表れと考えられる。 令和4年度にコロナ禍で対策を講じた上で開催された善光寺御開帳では、全国から約636万人の参拝者が訪れ、経済波及効果は推計1095億5千万円だったことから、本市歴史的風致が人々を引き付ける魅力があることが伺える。																																				
⑤ 今後の対応																																				
保存整備した文化財や歴史的まちなみに多くの人に訪れてもらえるよう、地域住民をはじめ関係機関などと連携しながら、整備と情報発信に取り組み、来訪者の増加につなげる。																																				

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年																								
効果	ii 市民の歴史・文化に対する関心の高まり																										
① 効果の概要 令和3年度まちづくりアンケートにおいて、「歴史や文化に関心がある」全体で約65%																											
② 関連する取り組み・計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>他の計画・制度</th><th>連携の位置づけ</th><th>年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>長野市総合計画（第四次、第五次）</td><td>あり</td><td>第四次：H19～H28 第五次：H29～R8</td></tr> <tr> <td>2</td><td>長野市まちづくりアンケート</td><td>なし</td><td>S57～</td></tr> <tr> <td>3</td><td>松代町文化財保存活用推進事業</td><td>あり</td><td>H25～R5</td></tr> <tr> <td>4</td><td>川田宿PR活用事業</td><td>あり</td><td>H26～R5</td></tr> <tr> <td>5</td><td>鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業</td><td>あり</td><td>H25～R5</td></tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	長野市総合計画（第四次、第五次）	あり	第四次：H19～H28 第五次：H29～R8	2	長野市まちづくりアンケート	なし	S57～	3	松代町文化財保存活用推進事業	あり	H25～R5	4	川田宿PR活用事業	あり	H26～R5	5	鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業	あり	H25～R5
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																								
1	長野市総合計画（第四次、第五次）	あり	第四次：H19～H28 第五次：H29～R8																								
2	長野市まちづくりアンケート	なし	S57～																								
3	松代町文化財保存活用推進事業	あり	H25～R5																								
4	川田宿PR活用事業	あり	H26～R5																								
5	鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業	あり	H25～R5																								
③ 効果発現の経緯と成果 本市では、歴史的風致維持向上計画の認定以前から地域住民と協力しながら、景観協定の締結、まちづくり活動や修景への助成などにより門前町、城下町など各地域に残る歴史的景観の維持保存を図ってきた。 市政に対する市民ニーズ、市が実施する事業に対する考え、意見、優先度などを調査し、今後の施策の基礎資料とするため、昭和57年度から「まちづくりアンケート」を行っている。令和3年度の「長野市における文化財の保存と活用をめぐる状況」アンケートにおいて、「長野市の歴史や文化について関心がありますか」の質問に対し、「関心がある」が約65%、「長野市の歴史や文化を保存・活用することは、重要だと思いますか」に対し「そう思う」に約85%の回答があった。 また、歴史や文化の保存・活用で協力できそうなこととして、イベントやお祭りへの参加に57.7%、草刈りや清掃などの環境整備活動に40.4%の回答があった。																											
「長野市の歴史や文化に関心がある」約65%		「川田宿の遺跡・文化財の再発見」 川田宿ガイドの会発行（R3.1.12）																									
④ 自己評価 文化財の保存や周辺環境の整備、祭礼のPRなどのほか、景観計画や屋外広告物条例等による指導や誘導により、各地域で時を超えて育まれてきた歴史・文化を背景とした良好な景観や行事が維持されていることで、市民の歴史・文化に対する関心の高さに繋がっている。																											
⑤ 今後の対応 多くの市民に歴史ある地域の伝統や文化に触れたり感じたりしていただけるよう、地域住民と連携して、歴史的資源を活用した住民活動の支援や歴史的まちなみの整備により地域の魅力を高めていく。																											

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年			
効果	iii 住民主体の積極的な歴史まちづくり活動					
① 効果の概要						
各地域で、住民主体のまちづくりに関する取り組みが活発化						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	長野市総合計画（第四次、第五次）	あり	第四次：H19～H28 第五次：H29～R8			
2	歴史的資源活用コーディネーター派遣事業	あり	H26～R5			
3	まちづくり協議会活動助成事業	あり	H25～H27			
4	戸隠茅場整備事業	あり	H26～R5			
5	伝統環境保存事業	あり	S59～			
6	松代歴史文化の発信・誘客事業	あり	H22～R5			
③ 効果発現の経緯と成果						
本市では、より多くの市民が長野の歴史と伝統を再認識し、かつ、誇りをもてる都市として発展していくため、地域固有の歴史的遺産を活かしたまちづくりを進める長野市歴史的風致維持向上計画を策定し、住民と行政が連携・協働して事業を展開してきた。 戸隠地区では、戸隠中社・宝光社地区まちづくり協議会が中心となり、宿坊など歴史的な建造物の維持や保存活用への住民意識の醸成に取り組んできた。平成29年2月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されことにより、地域住民の歴史まちづくりに関する意識が一層浸透し、茅の刈り取り体験など住民主体のまちづくり活動が積極的に行われている。 また、松代地区では、「NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会」、「松代文化財ボランティアの会」、「エコール・ド・まつしろ倶楽部」など地域住民組織が、地区内に数多く残る歴史的な文化遺産を掘り起して磨き上げ、地域資源を活用した様々な歴史まちづくり活動を実施している。なお、「NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会」、「松代文化財ボランティアの会」は、国土交通大臣表彰の手づくり郷土賞を受賞している。						
  戸隠地区 茅の刈り取り体験会  「夢空間松代のまちと心を育てる会」 手づくり故郷賞受賞(R4.11)						
④ 自己評価						
文化財や景観の整備に合わせ、長い歴史と日々の暮らしに根差し周囲の環境と一体となった特色ある景観を地域ぐるみで維持しようとする意識が定着するとともに、地域の歴史、文化を見つめ直し、守り伝えようとする住民の主体的な活動が継続している。						
⑤ 今後の対応						
文化財や歴史的建造物の保存、道路整備などのハード面の整備とともに、地元住民による歴史的・文化的なまちづくり活動への支援を行うなど、今後も住民と連携した歴史まちづくりを進める。						

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R3年
取り組み	A 善光寺周辺地域道路美装化事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

善光寺門前の良好な景観形成を推進するため、仲見世及び宿坊群で構成される釈迦堂（しゃかどう）通り、法然（ほうねん）通り、仁王門（におうもん）通り、阿闍梨池（あじやりがいけ）通り及び御幸坂（みゆきざか）通り等において、周囲の景観に調和した舗装整備（石畳舗装または石畳風舗装）を行うもの。また、本事業に併せて電線類地中化も行う。

◎令和3年度までの実績（道路美装化）

竣工済延長L=1,084m（進捗率100%）

- ・H25年度 地元協議（石畳舗装の仕様を決定）
- ・H26年度 仁王門通りL=102m、釈迦堂小路 L=26m
- ・H27年度 法然通り・羅漢小路 L=168m、釈迦堂通り L=73m
- ・H28年度 釈迦堂通り L=60m、阿闍梨池通り L=58m
- ・H29年度 阿闍梨池通り L=71m、上西之門通り・仁王門通り L=166m
- ・H30年度 御幸坂通り 測量設計、地元協議（石畳舗装の仕様を決定）
- ・R3年度 御幸坂通り L=245m



法然通り（整備前）

法然通り（整備後）H27



道路美装化・電線類地中化整備箇所

重点区域
・計画策定以降（H25～R5）
道路美装化・電線類地中化
道路美装化
電線類地中化
・計画策定以前（～H24）
道路美装化・電線類地中化

② 自己評価

善光寺門前の歴史的な建造物が多く残る院坊界隈の景観を向上させるため、整備方針に基づき、電線類を地中化した上で、石畳舗装等による道路美装化を実施するとともに、カーブミラーの支柱を環境色（茶系）のものに交換するなど、道路管理者をはじめ地元まちづくり協議会や地域住民と協議を重ね、住民意向の反映に努めながら事業を推進し、令和3年度までに進捗率100%を達成した。

外部有識者名	古平 浩（長野大学 環境ツーリズム学部 教授）
外部評価実施日	令和5年8月24日（木）

③ 有識者コメント

道路美装化、電線類地中化により、善光寺周辺の地区特性を踏まえた景観が形づくられ、善光寺を訪れる参拝者や観光者が、その歴史や文化に対して魅力を感じる要素となっている。また、地域住民と協議を重ねて整備方針を決定してきたことから、住民の歴史まちづくりへの意識の醸成にも寄与している。

さらに、令和3年度に完了した御幸坂通りの道路美装化・電線類地中化は、善光寺への来訪者にとって歴史的観光資源としての魅力を向上させるのみならず、長野県立美術館がある城山エリアと一体となった回遊性を向上させている。

本事業の完了により、歴史的建造物や宿坊などと一体的な景観の形成と住民意識の醸成が進み、エリア全体の魅力として広がりがみられる。今後、こうした魅力を効果的に情報発信することで、本事業の効果が更に高まることを期待します。

④ 今後の対応

善光寺周辺の良好な景観を維持及び向上できるよう石畳舗装等の美装化を実施した道路を適切に維持管理するとともに、整備路線の追加についても検討していく。

また、交流人口の増加や滞在時間の延長に向けて、善光寺門前や城山エリアの歴史的な街なみや歩いて楽しめる空間の積極的な情報発信に取り組んでいく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H26～R5年
取り組み	B 戸隠茅場整備事業	種別	歴史的風致の普及・啓発

① 取り組み概要

戸隠中社・宝光社地区の歴史的町並みを構成する茅葺き屋根の建物を、今後も適切に維持保全していくため、中社地区内にある戸隠スキー場中社ゲレンデを茅場として整備する。

なお、このゲレンデの一面には、すでに茅材に適した大茅が自生していることから、毎年、定期的に茅刈りを行うことにより、良質な茅場として整備できることが十分に見込めるため、戸隠中社・宝光社地区まちづくり協議会では、毎年11月に、地域住民による茅刈りに加えて、「茅刈り体験」を開催している。

「茅刈り体験」では、公開講座やまち歩きなどを同時に開催し、地域外参加者や学生に戸隠がもつ魅力を伝える試みを行うことで、地域活性化、伝統技術継承を図っている。

○実績（参加者のべ人数：地域住民含む）

H26年度／43人	H27年度／55人
H28年度／50人	H29年度／50人
H30年度／35人（「茅刈り体験」雨天中止）	
R元年度／10人（地域住民のみ）	
R2年度／80人	R3年度／162人
R4年度／180人	

茅刈り体験 in 戸隠 2022

11.3 [祝]・12 [土]・13 [日]

昔ながらのかやぶき屋根が多く残る長野市戸隠で、茅（かや）の刈り取り体験（ワークショップ）を開催します。刈り取った茅は、戸隠のかやぶき屋根に使わせていただきます。

会場 戸隠スキー場中社ゲレンデ（ゲレンデ敷内）
参加費 1名につき1,000円（中学生以下は無料）
募集 各日先着40名
（各日、2時前までに申し込みが必要。中学生以下は保護者同伴）
服装等 長袖・長ズボン・軍手・帽子・長靴など
持ち物 鎌、野合物、鎌（貸し出しあり）
日程 体験内容は各日とも同じ（雨天中止）

「茅刈り体験in戸隠2022」の様子（R4）

② 自己評価

戸隠中社・宝光社地区の重要伝統的建造物群保存地区選定のより、地元住民の歴史まちづくり意識が高まり、茅葺き屋根の修理に不可欠な茅材を地元で賄うため、地域住民が主体的に始めた活動に対し、行政が側面から支援することで、「茅刈り体験in戸隠」の毎年開催など、歴史まちづくりの本来の目的である「地域活性化」が図られた事業となった。

今後も、住民主体のまちづくり活動に対し、支援を継続していく。

外部有識者名	古平 浩（長野大学 環境ツーリズム学部 教授）
外部評価実施日	令和5年8月24日（木）

③ 有識者コメント

重要伝統的建造物群保存地区である戸隠中社・宝光社地区の茅葺き屋根修理に必要な資材を、地域住民が中心となり茅場を維持保存し、ススキを生育することから、地域住民の意識高揚に繋がる大変有効な事業である。

また、「茅刈り体験」のイベント化は、地域内のみならず地域外や幅広い年代の参加者を巻き込むことから、地域住民のシビックプライドを形成・醸成し、萱葺き技術等の伝統技術の継承につながっている。

これまでの実績を見ると参加者が増える可能性があり、今後はさらに本事業を周知し、情報発信を強化することを期待します。

④ 今後の対応

重要伝統的建造物群保存地区である戸隠中社・宝光社地区の固有の歴史的な景観を維持向上するため、引き続き、地域住民の協力を得ながら、建造物の修理修景助成事業を進めるとともに、道路美装化など歴史的景観に調和した周辺環境整備に取り組んでいく。

また、長い歴史と厳しい自然環境に育まれた戸隠の魅力が伝わるよう効果的に情報発信することで、満足度の高まりによる来訪者増加や滞在時間延長、また、移住定住、伝統技術の継承につなげていく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H27～R5年
取り組み	C 史跡松代城跡保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

史跡松代城跡の保存活用を進めるため、旧城郭範囲の史跡追加指定と公有地化、調査に基づく保存整備、生涯学習や観光の拠点としての環境整備を進めるもの。

◎令和5年度までの実績

- ・H27年度 史跡追加指定（二の丸南東部約1.7ha）
- ・H28・29年度 史跡追加指定地の用地取得
史跡保存活用計画・第2期整備計画の作成、調査
- ・H30・31年度 環境整備工事（戊亥櫓台階段・柵設置）、調査
- ・R2年度 木橋整備基本設計、外周園路整備（路盤工）L=134m
- ・R3年度 太鼓門前橋実施設計、外周園路整備（舗装工）L=65m
調査（発掘・史料等）
- ・R4年度 太鼓門前橋外整備（2箇所）、外周園路（舗装工）L=69m
石垣測量（カルテ作成）A=820㎡、調査（発掘・史料等）
- ・R5年度 太鼓門前橋外整備（2箇所）、西側園路（舗装工）L=52m
石垣測量（カルテ作成）A=750㎡、調査（発掘・史料等）



松代城跡保存整備事業の想定図（第2期）





櫓台階段・柵の整備（R2.1） 発掘調査説明会（R3.11） 太鼓門前橋の整備状況（R5.9）

② 自己評価

史跡の追加指定、公有地化が完了し、保存活用計画・第2期整備計画を作成することができた。計画に基づき櫓台階段や柵、太鼓門前橋等の再整備が進み、歴史的景観の維持向上が進んだ。また調査によって城郭の堀や土塁等の遺構が確認され、遺構復元に向けた検討が進められた。新御殿や武家屋敷の泉水（庭池）や水路網は、最終的に松代城の堀につながっていることから、城下町全体で泉水・水路の保存と活用を進める住民活動が進められている。

外部有識者名	梅干野 成央（信州大学 工学部 建築学科 准教授）
外部評価実施日	令和5年9月29日（金）

③ 有識者コメント

老朽化した櫓台の階段や柵、太鼓門前橋等が再整備されたことにより、安全性が確保されたとともに、松代城の景観や石垣等が伝える歴史性がひきだされ、より魅力を感じられるようになった。この整備にあわせて、城下町の水路網等の保全に関する活動も盛んになってきており、地域住民の歴史まちづくりへの意識醸成にも貢献していると考えられる。事業が長期間に及ぶため、地域住民に対し、整備の過程における歴史的な調査の成果などを発信しつつ、整備や今後のビジョンについて理解、共有を図り、積極的に活用を進めていく必要がある。また、隣接する新御殿や旧文武学校をはじめ、松代地区とその周辺域にのこる多くの文化遺産とも連携し、さらには個性（松代地区らしさ）の重点化に取り組み、地区全体の魅力向上に向けて事業効果がさらに高まることを期待する。

④ 今後の対応

史跡松代城跡の特徴的な魅力をさらに高めるため、引き続き調査に基づく遺構の復元整備や施設の有効利用のための環境整備を進めていく。また、調査成果や整備状況の情報発信強化、地元住民と連携した活用策を進め、松代地区全体での魅力向上、地域活性化につながる事業を継続していく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
取り組み	D 鬼無里地域の伝統的な祭礼等PR事業	種別	伝統的な祭礼等の普及・啓発

① 取り組み概要

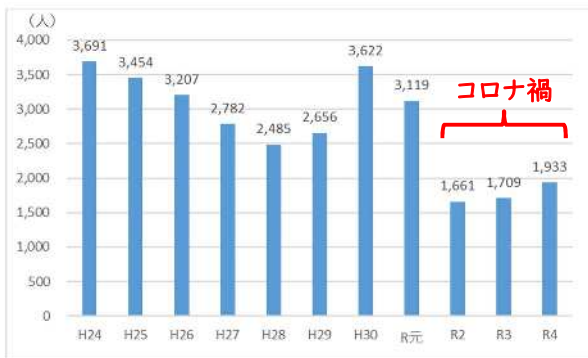
白髭神社や鬼無里神社の祭礼、諏訪神社の御柱祭など、鬼無里地区に伝わる伝統的な祭礼や鬼無里ふるさと資料館で公開されている「彫工北村喜代松」制作の屋台等について、鬼無里観光振興会と連携して、ホームページやSNSを使って広く情報を発信し、鬼無里地区の魅力をPRしている。

また、地域住民との協働により、地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くことができるコースを紹介したガイドマップ「鬼無里フットパス」を作成し、鬼無里地区全体の見どころの情報を発信している。

鬼無里ふるさと資料館の来場者が一定数あることから、情報発信の効果があるものと考える。



伝統的な祭礼の情報発信(R4.5)



鬼無里ふるさと資料館の入館者数の推移

年度	入館者数(人)
H24	3,691
H25	3,454
H26	3,207
H27	2,782
H28	2,485
H29	2,656
H30	3,622
R元	3,119
R2	1,661
R3	1,709
R4	1,933



ガイドマップ「鬼無里フットパス」(R4.12)

② 自己評価

このような地道な取り組みにより、地元大学生との連携など、鬼無里の伝統的祭礼の継承にも繋がる活動が行われていることから、地域の魅力を伝え、知ってもらう情報発信の重要度を実感する事業である。今後も地域住民、関係団体と連携し、継続的に地域の魅力を発信して、鬼無里の魅力を伝えていく。

外部有識者名	梅干野 成央（信州大学 工学部 建築学科 准教授）
外部評価実施日	令和5年9月29日（金）

③ 有識者コメント

鬼無里地区にのこる精巧な彫刻が施された祭屋台や神楽などの工芸品やそれらを用いた祭礼について、ホームページやSNSで情報発信する取り組みは、来訪者を増やすだけでなく、祭礼等の関係人口をうみだす、歴史的な資源の継承につながる重要な取り組みとして評価できる。とくに、祭事など単体での情報発信ではなく、地域全体の関連性に焦点を当て、ストーリー性をもって質の高い情報発信を行うことで、周辺地域にも効果が波及し、エリアとしての魅力を高めることにも成功している。こうした情報発信を継続、発展させながら、人口減少時代の中山間地域における歴史まちづくりのあり方を模索し、地域住民や関係団体のみならず、大学や企業、行政等と連携した積極的な観光振興、地域活性化を期待する。

④ 今後の対応

鬼無里地区の魅力となっている自然や歴史、伝統、農村景観などの関連性に着目し、引き続き、関係団体と連携して情報発信に取り組んでいく。

また、地区内で行われる伝統的な祭礼を継承できるよう祭礼の担い手を生み出す仕組みづくりについて、地域や大学などと連携して研究していく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	1 善光寺御開帳にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ 歴史的建造物の保全と活用 Ⅱ 伝統技術の継承 Ⅲ 歴史的まちなみと周辺環境の保全 Ⅳ 伝統的な祭礼等の継承 Ⅴ 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

善光寺では、数え年で7年に一度、「善光寺前立本尊御開帳」が催されている。期間中は、「中日庭儀大法要」をはじめ、様々な法要等が行われ、全国各地から多くの参詣者が集まる。

御開帳に欠かせない回向柱は、松代藩真田家が善光寺本堂建立の普請奉行に当たった縁で松代地区から寄進され、人々が回向柱を引きながら松代町内及び中央通り(善光寺表参道)を練り歩き奉納される。

② 維持向上の経緯と成果

■善光寺本堂耐震補強事業

平成22年度及び23年度に実施した国宝善光寺本堂の耐震診断では、本堂に行うべき耐震補強を、短期的視点と、本堂の大規模な修繕工事に併せて行う長期的視点とに分けて提案がなされ、まずは短期的視点からの天井吊補強工事をはじめとした天井部分の落下防止対策の補強工事を実施し、安全を確保した。

■善光寺周辺地域電線類地中化事業

善光寺門前の仲見世及び宿坊群で構成されるエリアの6路線(釈迦堂通り、法然通り、仁王門通り、阿闍梨池通り、御幸坂通り、長野北122号線：竣工済延長939m)について電線類地中化が完了し、善光寺周辺地域における良好な景観形成が図られた。令和4年4月3日から開催された令和4年善光寺御開帳では、全国から訪れた636万人の参拝者に本市が持つ歴史・文化の魅力を感じていただくことができた。

■中央通り歩行者優先道路化事業

回向柱の奉納行列が練り歩く、善光寺の参道である中央通り(700m)について、善光寺の参道の雰囲気に合わせて石畳舗装を行い、歩道の拡幅を行うことで、道路空間の魅力が向上した。



中央通り歩行者優先道路化(H27.4) 善光寺御開帳回向柱奉納行列(R4.3)



無電柱化・道路美装化
御幸坂通り(長野北98号線)

③ 自己評価

善光寺本堂耐震補強事業や善光寺経蔵保存修理事業など、文化財や歴史的建造物の保存修理をはじめ、周辺路線の電柱電線類地中化、美装化、隣接する城山公園の再整備等を実施し、善光寺周辺の良好な景観を形成するとともに、中央通り(善光寺表参道)の歩道拡幅や地域交流拠点整備により、参拝者の安全性及び回遊性が向上した。

④ 今後の対応

御開帳の開催を見据えながら、地域住民の意向を踏まえつつ善光寺周辺の良い景観形成に向け、整備路線の追加など検討をしていく。

また、門前町としての魅力を発信し、御開帳時のみならず交流人口の増加に向け、継続して賑わいあるまちづくりに取り組む。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	2 弥栄神社の御祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

善光寺門前の弥栄神社の祇園祭は、善光寺御開帳や記念行事に合わせて数年に1度行われていたが、平成24年からは毎年行われるようになった。郷土の匠によって制作された屋台が巡行加盟町から出され、土蔵造りや煉瓦造りなどの建造物が建ち並ぶ中央通り（善光寺表参道）や善光寺門前の宿坊・仲見世などの歴史的まちなみを背景に、住民が雅やかかつ威風堂々と曳行して御祭礼を華々しく彩る。

② 維持向上の経緯と成果

■ 弥栄神社の御祭礼屋台巡行支援事業

善光寺周辺の各町が保有し、弥栄神社の御祭礼で曳き回される屋台や祭礼用具の組立及び解体、補修等に対し補助することで、巡行屋台が一定数確保されている。参加町の住民が中心になって曳き回す屋台が、歴史的まちなみを華やかに彩り、伝統ある祭礼に多くの人々が訪れ、まちは賑わいを増す。



弥栄神社の御祭礼屋台巡行(R4.6)

■ 善光寺周辺道路美装化事業

弥栄神社の御祭礼の会場となる善光寺門前の仲見世及び宿坊群で構成されるエリアの7路線（釈迦堂通り、法然通り、仁王門通り、阿闍梨池通り、御幸坂通り、長野北122号線、長野北96号線：延長1,084m）について、石畳舗装又は石畳風舗装による道路美装化事業が完了したことで、善光寺周辺における門前の良好な景観が向上した。



■ 修景助成事業

美装化事業の路線ごとに地域住民と街づくり協定を締結し、協定に沿った景観となるよう建物の外観や門の修景に要する費用を助成することで、弥栄神社の御祭礼の舞台となる地域の良好なまちなみを維持した。



修理助成事業

③ 自己評価

善光寺周辺道路美装化事業や中央通り（善光寺表参道）歩行者優先道路化等の施設整備を行い、良好な景観形成、沿道空間の確保を図るとともに、屋台の保管状況を確認して現状を明らかにし、組立、補修等の支援を行うことで、弥栄神社の御祭礼における屋台巡行の歴史的風致が向上した。

伝統的祭礼の継承や巡行の担い手確保のために、更なる積極的な情報発信が必要である。

④ 今後の対応

本市の初夏を代表する伝統的祭礼を継承するため、屋台や祭礼用具の組立及び解体、補修等に対する支援を引き続き実施していくとともに、歴史を有する祭礼の主要な行事である屋台巡行の担い手確保や、観光振興、地域活性化を図るため、関係団体と連携し、積極的に情報を発信していく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	3 善光寺周辺寺社の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

善光寺周辺には、歴史的建造物や伝統的営みが続けられている寺社が数多く存在する。善光寺の近くに位置する湯福神社、妻科神社、武井神社は、善光寺三社と呼ばれ、古くから敬われてきた。それぞれの境内には歴史的建造物が複数残され、善光寺門前の住民が茅の輪ぐりや御射山祭、御柱祭などの地域色豊かな伝統的祭礼を今も途絶えることなく受け継いでいる。

② 維持向上の経緯と成果

■ 善光寺表参道地域交流拠点整備事業

中央通り（善光寺表参道）に面し、善光寺三社をはじめとした善光寺周辺に点在する神社仏閣へのアクセスにも便利な場所に、地元住民や観光客に歴史、文化の情報を発信する地域交流拠点（ながの表参道セントラルスクエア）を整備したことで、善光寺御開帳に合わせて『日本一の門前町大縁日』を開催するなど、中央通り（善光寺表参道）全体の賑わいを創り出すことができた。

■ 伝統芸能継承事業

長い間大切に守られてきた郷土の伝統芸能を後世に継承する団体に対し、用具の修理・更新、子ども用具の購入、外部講師謝礼、体験教室の開催、指導用DVDの作成等に必要な経費の一部を助成するほか、各団体間の交流や子どもたちの参加を促すイベントの開催、活動団体の情報発信等を行うことで、祖先の優れた文化活動の所産である伝統芸能の保存・継承を図った。

獅子舞フェスティバル及び伝統芸能こどもフェスティバルは、毎年参加団体にアンケート調査を実施しており、出演に関して非常に高い評価を受けている。また伝統芸能継承事業補助金も毎年30以上の団体が利用していることから、本事業が団体の活動継続に有効であると考えている。

【実績】

- ・伝統芸能継承事業補助金（補助率2/3、上限100千円）
補助実績（R3年度末時点）のべ196団体 16,427千円
- ・ながの獅子舞フェスティバル開催（例年5月開催）
- ・伝統芸能こどもフェスティバル開催（例年10月開催）



ながの獅子舞フェスティバル



ながの表参道セントラルスクエア

③ 自己評価

歩行者優先道路化事業を始め、善光寺の表参道となる中央通りとともに善光寺周辺や宿坊界隈の通りの環境整備を実施したことで、景観及び歩道機能が向上し、アクセス・回遊性が向上した。また、伝統芸能を守り伝えるために活動する団体への経費助成のほか、整備を行った中央通り等での伝統芸能披露の機会提供など、伝統芸能継承に関し支援を行い、善光寺周辺の歴史的風致を維持している。

④ 今後の対応

弥栄神社の御祭礼や諏訪社系神社の御柱祭など善光寺周辺寺社の祭礼を一体的に捉えた上で、景観及びアクセス向上となる道路美装化等を検討していく。また、地域色豊かな伝統的祭礼や伝統芸能の継承への支援を継続するとともに、観光客が訪れてもらえるよう情報を発信していく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	4 戸隠神社の式年大祭にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

戸隠神社では、数え年で7年に一度、式年大祭が行われる。奉告祭・着山式に始まり、離山祭で締めくくるまでの期間中、神輿「渡御の儀」をはじめ、宣澄踊りや太々神楽、獅子神楽など、江戸時代以前の神仏混淆時代から行われていた、伝統的な営みをみることができる。

中でも、宝光社社殿と中社社殿の間を神輿行列が進む「渡御の儀」及び「還御の儀」では、神輿の前後に祭神を護る形で、神楽、神楽装束、稚児、戸隠各地区の山車・獅子などが連なった豪華絢爛な行列が、茅葺の大屋根をもつ宿坊や民家など歴史的建造物が建ち並ぶまちなみの中を進んでいく。

② 維持向上の経緯と成果

■無形文化財支援事業

戸隠神社式年大祭において行われる宣澄踊りは、市無形民俗文化財に指定されている。文化財の保存・公開に必要な経費の一部について助成を行うことで、伝統文化の保存・継承が図られた。



戸隠神社式年大祭 還御の儀(R3.5)

■戸隠地域建造物修理修景助成事業

戸隠伝統的建造物群保存地区内の宿坊や民家等を、保存計画に定められた基準に則り、修理又は修景する場合は、経費の一部を助成している。修理方法等については、文化庁及び長野市伝統的建造物群保存地区保存審議会の指導、助言を受けて行われている。この事業により、祭礼の舞台である歴史的なまちなみが適切に保存され、祭礼の際には、まちなみと調和した歴史的風致を醸し出している。

宿坊の茅葺屋根修理



整備前

■戸隠地区伝統的建造物群保存対策調査事業

伝統的建造物群保存対策調査により、戸隠中社・宝光社地区における歴史的まちなみの価値が明らかになり、伝統的建造物群保存地区の決定、重要伝統的建造物群保存地区の選定に至った。これにより、祭礼の舞台である歴史的まちなみの整備を保存計画に基づき、適切に推進している。



③ 自己評価

伝統芸能への助成とともに、伝建制度を活用した保存事業等の実施によって、戸隠の魅力が高まり、地区を訪れる来訪者が増加した。このことで、住民による歴史まちづくり活動はさらに活発となり、伝統技術の継承と良好な景観形成が促進され、祭礼と場とが一体化した、質の高い歴史的風致を創り出している。



整備後(R4.3)

④ 今後の対応

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、妙高戸隠連山国立公園の一部にもなっている中社・宝光社地区の歴史的なまちなみ景観を一層向上させるため、戸隠地域建造物修理修景助成事業を引き続き進めていくとともに、周囲の歴史的景観に調和した道路美装化や、戸隠伝統的建造物群保存地区の特性に配慮した防災対策を進める。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	5 戸隠信仰と戸隠古道にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

江戸時代以前より、全国各地から多くの人々が参詣に訪れた善光寺と山岳信仰として名高い戸隠の間には、双方を行き交うための「信仰の道」としての古道があり、トレッキングを兼ねた参拝者に利用されている。古道が歴史的趣きを今に伝えている背景には、宿坊を営む戸隠神社の聚長（しゅうちょう）をはじめ、多くの関係者による下草刈りや1町ごとに造られた「丁石」の点検など、地域住民による日常的な維持管理活動があり、古道沿線の歴史的建造物とその道を適切に保全するための活動が一体となって、良好な歴史的風致が保たれている。

② 維持向上の経緯と成果

■戸隠古道現状調査事業

善光寺と戸隠とを結ぶ「信仰の道」である戸隠古道について、現状調査を行い、道すじの遺構や善光寺との歴史的な関連性を明らかにするとともに、より歩きやすくするために案内板の整備を行った。

■戸隠地域建造物修理修景助成事業

戸隠信仰や戸隠古道に深く関わる戸隠伝統的建造物群保存地区内の宿坊や民家等を、保存計画に定められた基準に則り修理又は修景を行う場合、経費の一部を助成している。文化庁及び長野市伝統的建造物群保存地区保存審議会の指導、助言を受けて修理等がなされており、この事業により、古道周辺の歴史的なまちなみが適切に整備された。

■茅場整備事業

古道周辺に散在する茅葺屋根の歴史的建造物を適切に保存できるよう、地元での茅材の確保と技術の継承を目的に、地域住民を中心に学生や地区外からの参加者が、地域の茅場である戸隠スキー場中社ゲレンデにおいて、毎年11月に茅刈りを行っている。

③ 自己評価

戸隠古道の歴史や現状の調査結果を踏まえ、地元住民の協力を得て、整備やイベントを行い、埋もれつつあった地域資源の歴史的な価値が再認識された。

また、戸隠伝統的建造物群保存地区内の古道周辺にある歴史的建造物についても適切な修理を行い、良好な景観が維持されるとともに、修復技術の継承が図られた。

戸隠古道の認知度を高めるため、情報発信の工夫が必要である。

④ 今後の対応

戸隠信仰と戸隠古道を総括的に捉えた上で、戸隠中社・宝光社地区の歴史的なまちなみ景観を向上させるため、戸隠地域建造物修理修景助成を継続するとともに、周囲の歴史的景観に調和した道路美化や眺望景観を向上させる電柱電線類移設についても、地域住民や関係機関と協議しながら進めていく。

また、多くの人に戸隠が持つ歴史的価値や魅力を認識してもらい、歩いてもらえるよう、計画的な整備、ストーリー性ある情報を発信をしていく。



戸隠古道大ウォーク(R3.11)

戸隠地域建造物修理



整備前



整備後(H31.3)

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	6 水路と庭園にみる松代城下町の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 VI 歴史的建造物やまちなみ、伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

北を千曲川、残り三方を急峻な山々に囲まれた松代城下町では、江戸時代より武家屋敷地を中心に独自の水系システムが発達し、泉水を中心とする庭園や、泉水と泉水をつなぐ水路網が、現在も残されている。かつて食器の洗浄や養鯉などに利用された庭園の泉水は、現在も防火用水や畑への散水など、生活に適応した利用がなされており、地形を活かした歴史的庭園群と地域住民による保存活動によって、貴重な歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

■ 伝統環境保存事業

江戸時代の武家屋敷地である松代地区の往時の地割や建物、特有の水路網や泉水のある庭園が良好に残る4町（表柴町、代官町、馬場町、竹山町）を伝統環境保存区域に指定し、伝統環境の修理・修景に助成を行うほか、建築物、庭園等の新築、増改築、修繕などに際し、修景基準に基づき事前届出制を設け、伝統環境保存への誘導をしている。

■ 松代城下町歴史的建造物・庭園調査事業

松代地区の歴史的建造物や庭園・泉水等を保全し、歴史的資源を活かしたまちづくりを進めるため、平成22年から26年にかけて地区に残る歴史的建造物、水路や庭園等の現況調査を行い、地域に管理活用方法を提案した。

この調査成果が基となり、地区内の登録文化財が増加し、地域と行政が勉強会などを行いながら、保存活用の方策を検討している。

■ 松代歴史文化の発信・誘客事業

地域住民で設立した「NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会」が、水路や庭園等のまち歩きイベントや情報発信を行い、地域住民及び来訪者への松代城下町の歴史的風致の理解促進を図っている。

石組水路の改修
(H30伝統環境保存事業)

まち歩きイベントの様子

歴史的建造物・庭園調査
実施年度 H22～H26

年度	建造物 (件)	記念物 (件)
H24	59	4
H25	59	4
H26	73	7
H27	79	7
H28	79	7
H29	79	7
H30	81	7
R1	81	8
R2	80	8
R3	81	8
R4	81	8
R5	81	8

松代地区登録文化財件数の推移

③ 自己評価

条例による誘導や登録文化財の増加、地域住民の主体的な活動により、松代城下町特有の水路や庭園にみる歴史的風致が維持されるとともに、観光振興にもつながっている。

伝統環境保存区域内で、宅地分譲などの開発行為による伝統環境の滅失や世代交代に伴う空き家の事例が増えており、地域と行政が連携して歴史まちづくりの取り組みを継続していく必要がある。

④ 今後の対応

地域住民の理解と協力をいただきながら、歴史的建造物、水路や庭園の保存を進め、城下町としての魅力ある伝統環境の維持と向上を図るとともに、これらを外国人観光客や移住希望者などの来訪者に魅力のある観光資源に磨き上げる。

また、条例に基づく誘導により伝統環境の保存に取り組む。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	7 祭礼にみる松代城下町の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

松代城下町の江戸時代から続く代表的な祭礼として、毎年7月に祇園祭(天王祭)が行われる。祭では、玉依比売命神社に奉納されている神輿が町内を巡行し、町屋を中心に勢獅子の舞が繰り広げられる。多くの町屋が建ち並ぶ歴史的まちなみを舞台とする祇園祭は、江戸時代の絵巻物を彷彿させ、松代城下町の風情を現代に伝える重要な歴史的風致である。

② 維持向上の経緯と成果

■松代地域道路美装化事業
 旧松代藩の城下町である松代の中心市街地は、江戸時代から続く祇園祭(天王祭)の神輿巡行の舞台である。城下町にふさわしい歴史的景観とするために、周囲の歴史的建造物に調和した歩車道の美装化(施工延長600m:進捗率100%)を実施した。伝統的な祭礼と城下町の歴史的まちなみが一体となり、質の高い歴史的風致を醸し出している。

■旧松代藩鐘楼広場整備事業
 周囲の歴史的まちなみよりもひととき高くそびえ、松代城下町の象徴となっている旧松代藩鐘楼の保存修理に加えて、鐘楼と一体的に周辺広場の整備を実施したことで、旧松代藩鐘楼広場が、松代城下町を周遊する観光客の観光スポットとなっている。

■松代地域耐震性貯水槽整備事業
 登録文化財の玉依比売命神社周辺の防火対策として、耐震性貯水槽1基(60m³)を設置し、歴史的建造物の防災機能を充実させた。

■松代歴史文化の発信・誘客事業
 地域住民で設立したNPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会では、まち歩きの開催や情報の発信をしており、祇園祭(天王祭)などの祭礼の舞台となる松代城下町の魅力が認知され、観光振興につながっている。

③ 自己評価

祇園祭(天王祭)の神輿巡行の舞台となる松代城下町内の道路美装化や象徴的な建造物等の保存整備、防火対策などにより、伝統的な祭礼を助長する環境が整い、歴史的風致が向上した。

また、地元まちづくりNPO法人の祭礼に関する情報発信により、観光資源にもなった。

少子高齢化の進展に伴い祭礼に関わる人材や担い手が不足しており、伝統的祭礼の継承が課題である。

④ 今後の対応

祇園祭(天王祭)を含め松代城下町の歴史的風致を一体として捉え、市民やインバウンドを含む来訪者に向け魅力を発信することで、観光振興や地域活性化につなげる。

祇園祭(天王祭) 勢獅子の様子



旧松代藩鐘楼広場整備事業



整備前



整備後(H26.3)

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	8 大室古墳群にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信 VI 歴史的建造物や伝統的な祭礼等の調査研究		

① 歴史的風致の概要

大室古墳群は、総数500余基を数える東日本屈指の大古墳群である上、石を積み上げて墳丘とした「積石塚」や、天井石を屋根形に組み合わせた「合掌形石室」が集中する、特徴的な古墳群である。

古墳群は、大正時代から松代町大室地区の地元住民を中心とした保存会によって、保存・継承されている。

② 維持向上の経緯と成果

■住民団体による情報発信・誘客事業

大室古墳群保存会が中心となり、10月に「大室古墳群まつり」を開催している。このまつりは、地域住民にとって古墳群を再認識する場となり、また、地域外の市民にとって古墳群を訪れる良い機会となっている。

■史跡大室古墳群保存整備事業

積石塚古墳・合掌形石室が密集して分布する、遺構復元整備ゾーンの古墳を修理するなどして保存・継承するとともに、周辺の自然環境を保全し、園路や説明板等の便益設備を整えて利便性を高め、市民による見学はもとより、学校教育や生涯学習の場としての価値を高めている。

■大室古墳群アクセス道路整備事業

整備が完了したエントランスゾーンやガイダンス施設「大室古墳館」を拠点に史跡の保存や利活用が進んでいる一方で、史跡までの道路幅が狭く、大型バスの進入ができない状態となっている。

大室古墳群の歴史的価値の周知をさらに進めていくために、地域のアクセス道路対策委員会と協力して、道路整備を進めている。



大室古墳群まつり（火おこし体験）



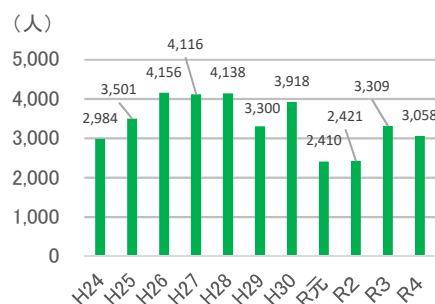
小学校6年生の社会科見学

③ 自己評価

エントランスゾーンや大室古墳館の整備が完了し、史跡保存整備は計画通り進めているが、アクセス道路の整備に時間を要している。

大室古墳館の入場者数が年4,000人程度あることから、大室古墳群がもつ歴史的価値や魅力は認められる。

古墳の保存整備や周辺環境の整備を継続するとともに、アクセス道路の早期整備を進める必要がある。



大室古墳館の入館者数の推移

④ 今後の対応

引き続き古墳群周辺の自然環境を保全し、園路や説明板等の設備を整えて利便性を高めるとともに、地域住民の協力の下、地権者からの同意を得てアクセス道路の整備を進める。また、古墳群の貴重な価値や多彩な魅力を掘り起こして、より効果的に情報を発信していく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	9 街道と川田宿にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

北国街道松代道の宿場の一つである川田宿には、旧本陣の西澤家住宅を始め、今も当時の宿場町の町割りが残っている。川田宿では、古くからの秋葉信仰に加え、数え年で7年に一度ごとに町川田神社で御柱祭が行われており、活気あふれる宿場町の風情が伝えられている。

② 維持向上の経緯と成果

■川田宿PR活用事業

川田宿を訪れる観光客に川田宿の歴史的町並みや伝統文化を広くPRするため、住民有志で設立した川田宿ガイドの会は、案内ガイドの実施やまち歩きガイドマップの作成、川田宿音頭の制作など川田宿の歴史、文化をPRするとともに、地元の小中学生の授業で講師を務めるなど地域の歴史的風致を伝承している。



川田宿ガイドの会による活動

■旧信濃川田駅保存整備事業

川田宿の歴史を伝える資料館及び来訪者に対する案内拠点として、地域における歴史的建造物である旧長野電鉄屋代線信濃川田駅の駅舎の内部改修と外観修景、花壇整備を地域住民自らが行った。

具体的な管理・活用方法等について、地域と市で協議を継続している。



駅舎の活用・管理方法の協議

③ 自己評価

川田宿ガイドの会では、定例会や先進地での研修によりガイド技術を磨きながら、来訪者へのガイド活動を行っているほか、冊子「川田宿の遺跡・文化財の再発見」（R3.1.12発行）を作成してPRを行うなど、川田宿がもつ歴史的風致を伝承している。

また、川田宿の歴史を伝える資料館及び案内拠点としての旧信濃川田駅舎の利活用については、地域住民が主体的に活動できるよう支援を行っている。

引き続き、活動を支援するとともに、地域住民との協議を継続していく。



住民による駅舎壁面塗装の様子

④ 今後の対応

川田宿のPR活動や信濃川田駅舎の利活用など、住民主体のまちづくり活動を支援する。

また、松代城下町との関連に着目し、北国街道松代道の宿場の一つとして歴史的風致の魅力向上を検討していく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	10 白髭神社と祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

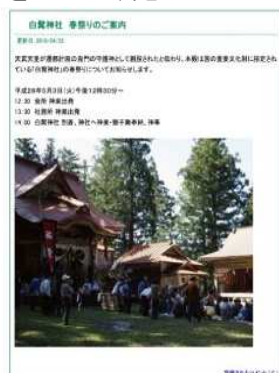
白髭（しらひげ）神社では、毎年春と秋に伝統的な祭礼が催されている。祭礼では、国の重要文化財に指定されている本殿の一般拝観が行われるとともに、中心的な祭事である神楽巡行では、明治時代以降の蚕室型民家が立ち並ぶ集落の中を神楽が曳き出されて祭りを盛り上げている。

② 維持向上の経緯と成果

■ 鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業

鬼無里観光振興会では、白髭神社や祭礼も含めた鬼無里地区の情報や魅力をホームページやSNSで発信し、来訪者の増加に取り組んでいる。

また、鬼無里観光振興会と地域住民の協働により、地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くことができるコースを紹介したガイドマップ「鬼無里フットパス」を作成し、白髭神社や祭礼をはじめ、鬼無里地区全体の見どころの情報を発信している。



伝統的な祭礼の情報発信



白髭神社春祭りの様子



ガイドマップ
「鬼無里フットパス」

■ 「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業

白髭神社の神楽は、彫工北村喜代松の手による精緻な彫刻が施され、市有形文化財（工芸品）に指定されている。鬼無里ふるさと資料館において展示し、優れた技術の情報発信を行っている。また、同館ホームページの内容の充実や多言語化により情報発信力を高めている。



「彫工北村喜代松」制作
の屋台修理

③ 自己評価

鬼無里観光振興会と連携してホームページやSNSで情報発信し、鬼無里ふるさと資料館の来場者が一定数あることから、情報発信の効果があったと考えられる。精巧な彫刻のある屋台の保存、地域住民が集い開催される祭礼は、地域の大きな魅力となっている。

④ 今後の対応

鬼無里地区の魅力をさらに知っていただけるよう、地区内の寺社等の歴史的建造物及び祭礼の歴史的風致を一体的にまとめ、その歴史的風致について物語性を持って発信し鬼無里地区全体の認知度を高めていく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	11 鬼無里神社の祭礼と町家にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 伝統技術の継承 III 歴史的まちなみと周辺環境の保全 IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

鬼無里神社では、5月初旬に精巧な彫刻を特徴とする屋台が曳き出されて、春祭りが行われる。交通の要衝として栄え、中2階を出梁造りでせり出す形式の町屋や切妻造りの町屋など、明治時代から大正時代にかけての歴史的建造物が軒を並べる歴史的まちなみの中を屋台が練り歩いて、かつての繁栄を偲ばせている。

② 維持向上の経緯と成果

■「彫工北村喜代松」制作の屋台等保存・公開活用事業

鬼無里神社の屋台は、彫工北村喜代松の手による精緻な彫刻が施され、市有形文化財（工芸品）に指定されている。通常は鬼無里ふるさと資料館で展示されているが、鬼無里神社の祭礼時は巡行に用いられ、祭礼のにぎわいとともに名工の優れた技術を間近に見ることができる。

■コーディネーター派遣事業

鬼無里神社の祭礼において巡行している「彫工北村喜代松」制作の屋台の柱にひびが入っており、実施が危ぶまれていた。平成30年度に修理方法等について専門家の意見を聴き、地域住民が修理を行うことを決断し、屋台巡行が継続できるようになった。

■松巖寺観音堂・経蔵保存修理事業

鬼無里神社の祭礼において、屋台巡行のルート沿いに位置する松巖寺の観音堂・経蔵は、市有形文化財及び歴史的風致形成建造物に指定されている。老朽化等による損傷と後世の改変が著しいため、平成26～27年度に観音堂を、平成28～29年度に経蔵を当初に近い姿に復原する保存修理を行った。

屋台状況調査の様子

松巖寺経蔵保存修理事業

整備前

整備後(H29.12)

③ 自己評価

文化財の屋台を活用した祭礼が開催され、来訪者にも曳き手として参加してもらうことで、地域独自の文化を感じてもらうことができた。

また、屋台巡行を継承するため、専門家を派遣して地域住民の主体的な検討を支援したほか、巡行ルート沿いの歴史的建造物を保存修理し、歴史的風致を向上させた。

鬼無里ふるさと資料館のホームページの多言語化を進め情報発信を強化できた。

④ 今後の対応

鬼無里地区の魅力をさらに知っていただけるよう、地区内の寺社等の歴史的建造物及び祭礼の歴史的風致を一体的にまとめ、その歴史的風致について物語性を持って発信し鬼無里地区全体の認知度を高めていく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
歴史的風致	12 諏訪神社の御柱祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 伝統的な祭礼等の継承 V 文化財や伝統的な祭礼等を活用した観光振興や情報発信		

① 歴史的風致の概要

諏訪神社では、鬼無里地区で唯一の御柱祭が数え年で7年に一度、途絶えることなく行われている。地元の山で切り出された御柱は、山間地集落の景観の中を住民によって音頭をとりながら曳行される。地域固有の伝統的な祭礼は、今も受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

■ 鬼無里地域の伝統的祭礼等PR事業

鬼無里観光振興会が、ホームページやSNSで諏訪神社の御柱祭の情報発信を行い、令和4年5月の諏訪神社御柱祭には、来訪者も里曳きに参加し、賑わいを見せた。

また、鬼無里観光振興会と地域住民の協働による鬼無里地区全体のガイドマップの作成や、鬼無里地域歴史風致維持向上協議会による鬼無里の歴史的風致に関するマップの作成は、諏訪神社や白髭神社、鬼無里神社をはじめとする地区全体の魅力を見つめ直す機会となった。

コロナ禍で対策を講じ催された
諏訪神社御柱祭（R4.5）



鬼無里観光振興会と地域住民の協働で刷新したガイドマップ（R4.12）



③ 自己評価

令和4年の御柱祭は、受け継がれてきた祭礼を継承しようとする地域住民の強い思いで、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で開催された。また、鬼無里観光振興会による情報発信や地元大学生との連携により、御柱祭は賑わいをみせていた。

地域の魅力を継続的に発信して認知度を高めていく必要がある。



④ 今後の対応

鬼無里地区の魅力をさらに知っていただけるよう、地区内の寺社等の歴史的建造物及び祭礼の歴史的風致を一体的にまとめ、その歴史的風致について物語性を持って発信し鬼無里地区全体の認知度を高めていく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年						
① 庁内組織の体制・変化 ■まちづくり課歴史的まちなみ整備室と文化財課の事務局体制 長野市歴史的風致維持向上計画の策定以降、歴史まちづくり全般に関する事項に関して、都市整備部まちづくり課歴史的まちなみ整備室と教育委員会文化財課が中心となり、協議を行っている。 計画内事業の進捗や事業の検討に際しても、長野市歴史的風致維持向上協議会事務局である両課による事務局会議を随時開催し、報告、協議を実施している。 また、急を要するなど特に必要がある場合には、両課担当者及び管理職による協議を行い、対応に当たっている。 ■庁内歴史まちづくり推進会議 庁内関係課で構成する「歴史まちづくり推進会議」を年2回程度開催し、各課で実施する歴史まちづくりに資する事業の情報共有、意見交換などを実施している。 また、複数課で対応が必要な事例が生じた場合、歴史まちづくり推進会議を通じて情報共有を行った関連課で集まり、随時、対応等の協議を行っている。 ■長野市景観計画との連携 景観・屋外広告物に関する事業を統括するまちづくり課景観担当とは、歴史的まちなみ整備室と同じ課に属していることから、日頃から意見交換を行うとともに、情報共有を図っている。									
		 歴史的まちなみ整備室と文化財課の事務局会議（随時開催）							
		 令和5年度 第1回歴史まちづくり推進会議（R5.4月）							
② 庁内の意見・評価 長野市歴史的風致維持向上計画の策定により、定期的に庁内推進会議を開催することで、着実に歴史ある建造物や祭礼などを活かそうとする意識の深まりが見られる。 重点区域内で実施する事業については、まちづくり課歴史的まちなみ整備室、文化財課、観光部署、関係先と日常的に意見交換できる体制となった。 参考として、これまでに実施したアンケート結果の概要を、次のとおり掲載する。 Q: 所管事業を計画に掲載したメリットはあると思うか。その理由は。（回答数9） A: <table border="1"> <tbody> <tr> <td>ある</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ややある</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>ほとんどない</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> ○「ある」又は「ややある」の理由（自由記載） ・事業推進の指針となる。 ・課題共有により解決のヒントとなる。 ・補助金が利用できる。 ○「ほとんどない」の理由 ・補助金、起債等のメリットが無い。 Q: 効果的に歴史まちづくりを進めるために必要と思うこと。（自由記載） A: ・情報発信を強化すること。（地域において中心となる人を選定し情報共有すること。） ・地域住民の意見を反映させること。 ・地域住民・NPOへの支援策を拡大すること。 ・庁内全体の更なる情報共有と連携、地区ごとの連携（地区事業について担当課の打ち合わせ） ・各事業が関連性をもち、相乗効果が出るようにすること。 ・順調でない事業について、協議会メンバーによる協議を通じて問題解決の糸口を探ること。 歴史的風致維持向上計画の策定により、まちづくり部局と文化財部局の強い連携が生まれ、当市の歴史まちづくりが大きく進んだと考えている。 その上で、以上の意見を踏まえて、庁内における歴史まちづくり体制の拡充を図っていく。				ある	3	ややある	5	ほとんどない	1
ある	3								
ややある	5								
ほとんどない	1								

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
------	-----	--------	---------

① 住民意見

令和5年7月～8月に、計画における重点区域を構成する9行政区域において、地区の代表として様々な行事や祭事を取りまとめている区長等で構成する住民組織等（住民自治協議会総務委員会など）に対しアンケートを実施し、135件の回答を得た。

回答結果の概要は、以下のとおり。

質問(1) 地区の歴史的なまちなみや活動は、良好に維持向上されていると思いますか。

結果

	思う	まあ思う	あまり思わない	思わない	回答なし	合計
回答数	17	65	40	11	2	135
割合	12.6%	48.1%	29.6%	8.1%	1.5%	100.0%

主な回答の理由（自由記載）

- ・歩道も歩きやすくなり、見栄えもよくなった。
- ・各歴史関係団体や地区役員を中心に、歴史的なまちなみや行事等を保存する活動が続いている。
- ・石畳舗装にした道路の修繕が行われていない。
- ・御開帳のような全国的な行事は観光客等で賑わうが、その他の伝統的な祭礼等は、市民等の関心が無いようにみえる。
- ・効果、成果をあまり実感できない。

質問(2) 地区の伝統的な祭礼や活動等は、良好に継承されていると思いますか。

結果

	思う	まあ思う	あまり思わない	思わない	回答なし	合計
回答数	25	60	43	5	2	135
割合	18.5%	44.4%	31.9%	3.7%	1.5%	100.0%

主な回答の理由（自由記載）

- ・最近、マンションの新住民も行事に参加するようになり、若い人への継承が進んでいる。
- ・コロナ禍で中止していたものも復活しているが、高齢化と少子化により、将来継承されていくか不安がある。
- ・地区内の少子化、高齢化、コロナウイルスなどの影響で伝統的な活動に対し意欲が減少し、消極的な傾向になっている。

市町村名

長野市

評価対象年度

H25～R5年

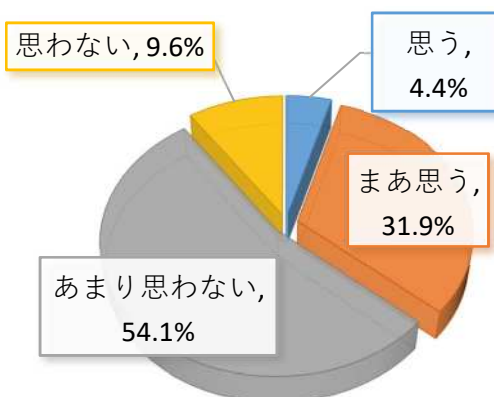
質問(3) 市民の歴史まちづくりへの関心は高まっていると思いますか。

結果

	思う	まあ思う	あまり思わない	思わない	回答なし	合計
回答数	6	43	73	13	0	135
割合	4.4%	31.9%	54.1%	9.6%	0.0%	100.0%

主な回答の理由（自由記載）

- ・古い歴史あるものを地域の活性化へ繋げようとする機運がある。
- ・歴史まちづくりが生活しやすい環境づくり、経済効果に結び付いていない。
- ・歴史まちづくりといっても、どんなことをやっているかよく分からない。
- ・市民に「歴史的風致」という言葉さえ知られていない。



歴史まちづくりの今後の進め方などについての主な意見（自由記載）

- ・古い町並みに住んでいるが、高齢化により古い住宅が空き家になることが多くなってきており、それらの家屋が解体されていくことが現実である。
- ・市から発信が少なく、このような計画があったことは今知った。市民に対してもっとPRした方が良いと思う。
- ・活動内容を周知し、関心を持ってもらうことが必要か。
- ・歴史まちづくりの目的が不明確（観光のため？、文化継承のため？市民の満足度向上のため？）。今後の計画は、目的を明確にした方が良いでしょう。
- ・事業継続され活動が進められていることは望ましいこと。
- ・地域住民に理解しやすい計画を策定し、地域の行事等の機会を捉え説明していく。
- ・第2期もぜひとも取り組んで欲しい。

以上の結果から、道路美装化、修景事業などのハード整備や地域住民を中心に行われている活動の効果により、歴史的まちなみや伝統的な祭礼等が良好に維持されてきたと考えている一方で、今後の歴史的風致の継承については、高齢化、空き家の増加、住民関係の希薄化などの様々な問題により、不安を感じていると考察する。

これらを踏まえ、歴史的建造物等の保全や歴史的まちなみと周辺環境の整備などを引き続き継続するとともに、様々な媒体を活用したPR、情報発信を積極的に行うなど、担い手の増加に繋がる取り組みを進めていく。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
------	-----	--------	---------

② 協議会におけるコメント

これまでの取組に関する意見 等（要約）

【事業の内容、進捗状況等に関すること】

- ・ 全般的に、着実に成果をあげていると思う。
- ・ 順調に事業進捗していると思う。
- ・ まず、費用が大きくかかる幹となる部分に予算を充て、その後、枝葉となる部分にシフトしていくことで、うまく事業を進められたと思う。
- ・ 地域ごとに行われている伝統的な祭礼に子供たちが参加する機会が、減ってきている。「伝統芸能こどもフェスティバル」だけでなく、地域の祭礼を継承するためにも、現状を把握して、担い手の育成につなげることはできないか。

【歴まち計画策定の効果に関すること】

- ・ 地域の貴重な歴史文化の維持継承に、大いに寄与していると思う。
- ・ 建造物修景事業や道路美装化事業などハード事業も計画に位置付けることで文化的事業などのソフト事業と結びつけられ、歴史的風致の維持向上に効果があるものとなっている。
- ・ 効果には、地域差があると感じる。

今後の進め方に関する意見 等（要約）

【情報発信について】

- ・ 住民への情報発信が、まだ不足していると思う。
- ・ 住民アンケートで得た結果が、的確な評価だと思う。より市民や観光客に向けた活動内容の発信が望まれると思う。
- ・ 計画内容を重点区域の住民に周知することで、居住地域の歴史的風致の再発見や維持向上への効果が上がると思う。

【継承について】

- ・ 若い世代への継承をどのように進めるのか、具体的な取り組みが必要。
- ・ 祭りなどの地域の行事について、小さな規模から大きな規模へ波及することを目指すことが良策だと思う。近隣関係が希薄になりつつある今、地域関係を再構築するのは難しいことだと考えるが、インバウンドを視野に入れ、伝統行事をイベント化することで、地域行事が継承されると思う。

【その他】

- ・ 効果が出ている事業を他の事業と関連付け、相乗効果を上げる事業展開が必要。
- ・ 今後の取り組みの具体例として、歴まち計画の重点区域を巡るツアー、観光客用に細かい説明を省略したマップ作成、市民周知のための第1期計画活動報告をまとめた資料の配布、協議会への学生参加、協議会での現地視察など
- ・ まちづくり部署と文化財部署、観光振興部署などが情報交換できる庁内体制は、今後も継続してほしい。

市町村名	長野市	評価対象年度	H25～R5年
① 全体の課題 1 歴史的建造物等の保存に関する課題 伝建地区の選定、建造物の修理、修景の助成などにより、一定の成果を得られたが、人的・経済的な負担や歴史的価値の認識が浸透していないことなどから、滅失・空き家化が進行している。 2 地域に残る伝統と生業の継承に関する課題 ^{なりわい} 担い手や資金の不足による活動縮小、また歴史的建造物の滅失による修復する技術を活用する機会の減少により、これらの継承が困難になっている。 3 歴史的まちなみと周辺環境の整備に関する課題 本計画の下で各種事業を実施したことにより、良好な景観形成を推進してきたが、これらの事業は、長期にわたる取り組みを要することから、継続して実施する必要がある。 4 歴史的風致を活かした観光振興・地域活性化に関する課題 長く受け継がれてきた地域固有の伝統や文化の背景にある魅力あるストーリーを市民や来訪者に効果的に伝える必要がある。 5 歴史文化の調査研究に関する課題 個別の事業で個々の文化財の調査研究及び活用は進められているが、一体的、網羅的に調査研究を進め、各地域の文化財や歴史的建造物等の保存活用につなげる必要がある。			
② 今後の対応 1 歴史的建造物等の保存に関する方針 適切な措置がされていない歴史的建造物等に対し、国等の支援策を活用して、歴史的価値の高い建造物等の保存に、継続して取り組む。 2 地域に残る伝統と生業の継承に関する方針 ^{なりわい} 幅広い情報発信などにより、若い世代と接点を持ち、担い手の確保、継承者の育成について、引き続き取り組む。 また、歴史的建造物の保存事業などにより、地域での生業の継承につなげる。 ^{なりわい} 3 歴史的まちなみと周辺環境の整備に関する方針 地域住民の理解と協力を得ながら、地域固有の歴史や文化が感じられる良好な景観形成と歩いて楽しめる環境の整備を図る。 4 歴史的風致を活かした観光振興・地域活性化に関する方針 地域住民や関係団体、大学等と連携し、周遊ルート of 構築、案内・説明情報のデジタル化などを進めるとともに、効果的な情報発信の手法や体制を整え、観光振興、地域活性化につなげる。 5 歴史文化の調査研究に関する方針 地域固有の歴史的風致の維持向上に向け、文化財保存活用地域計画と連携を取りながら、文化財や歴史的建造物、伝統的な祭礼等の調査を継続的に実施し、本市の多様な歴史や文化を把握した上で、総合的に保存、活用していく。 以上の方針を含み、これまでの成果を継承した第2期計画を策定し、継続して歴史まちづくり事業に取り組むことで、「住み続けられるまちづくり」を目指す。			